

# ザンビアに医師ら派遣へ

—AMDA発表—

アフリカ南部のザンビア共和国で、日本政府の途上国援助(ODA)を受けて計画されている保健医療プロジェクトに、岡山市に本部をもつ非政府組織(NGO)のアジア医師連絡協議会(AMDA)が参加することになった。各地域に医療、保健活動の拠点を設けて、AMDAが専門家を派遣する計画。AMDAの菅波茂代表(四七)と、来日中のザンビアの首都ルサカ市のギボン・シンバ市長(六三)が二十三日、記者会見して発表した。

## 政府援助に参加

シンバ市長によると、人口百八十万人のルサカ市には大きな病院が二つ、治療をする「アーバン・ヘルス・センター」も二十三カ所ある。しかし、センターは三十万人に一カ所という場所もあって、十分に機能していないという。

計画では、ヘルス・センターの下部組織として、診療や衛生教育に携わる「ヘルス・ポスト」を置く。保健婦や医師、教育関係者を駐在させて、住民の栄養改善やマラリア、エイズなどの予防法を伝える拠点にする。日本が五年間で約五億円を出す。

八月ごろに両国政府が正式調印をして、今秋から事業を具体化させる予定。NGOが計画段階からODA事業に加わるのはあまり例がないという。

シンバ市長は「小さな地域ごとに患者を診られれば、大勢の患者を救えるはずだ。今回の事業が貧困解決につながることを期待している」と話した。

菅波代表は「保健、医療を地域住民までどう行き渡らせるかが課題。初歩的な保健についての教育や農業指導にもかかわらず、縦割りでないNGOの特色を生かしたい」と話し、NGOが政府の事業に加わる意義を強調した。



ODAプロジェクトについて  
会見するシンバ・ルサカ市長  
(左)と菅波代表(右) 〓岡  
山市椿津の菅波内科医院で